

チェック表

※項目② ③については、主治医の先生が記載してください。

① あなたが使用する薬の名前は下記のとおりです。

日赤ポリグロビンN注5%（一般名：pH4処理酸性人免疫グロブリン）

② この薬は下記の目的のために使用します。

③ あなたへの薬の使用量と使用方法、所要時間は下記のとおりです。

●使用量 0.5g（10mL） 本/日 × 日間（備考）
 2.5g（50mL） 本/日 × 日間（備考）
 5.0g（100mL） 本/日 × 日間（備考）

●使用方法 _____

●所要時間 およそ _____ 時間 _____ 分（1回使用分の時間）

④ あなたが次の項目にあてはまらないか確認してください。

あてはまるときは、主治医にそのことを伝えてください。

- 今までに、薬や食事で、皮膚に発疹^{ほっしん}が出たり体に異常を起こしたことがある。
- 体の中にIgAがないと言われたことがある。
- 腎臓に病気がある。
- 脳・心臓の血管に病気がある。または、過去に病気があった。
- 血栓^{けっせん}などで血管が狭くなったり、つまる危険性が高いと言われたことがある。
- 貧血がある。
- 体の抵抗力がおちている。
- 過去2週間以内に、麻疹^{ましん}ワクチン、おたふくかぜワクチン、風疹^{ふうしん}ワクチン、水痘^{すいとう}ワクチンなどの予防接種をした。

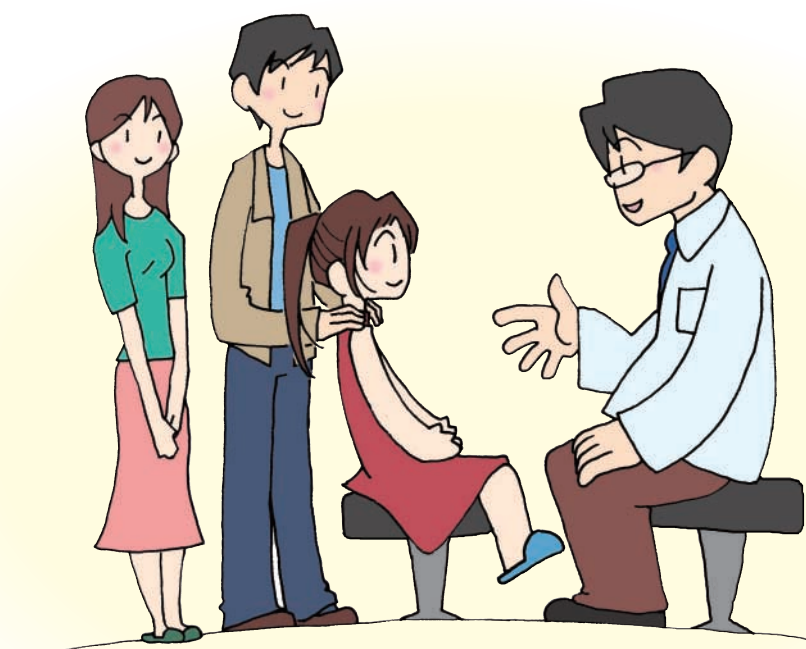
この薬の使用により、病原体に感染する危険や副作用が伴う可能性を完全に排除することができないことを十分理解してください。

その他、わからないことがあれば主治医、薬剤師、看護師にご相談ください。

医療機関名

くすりの話

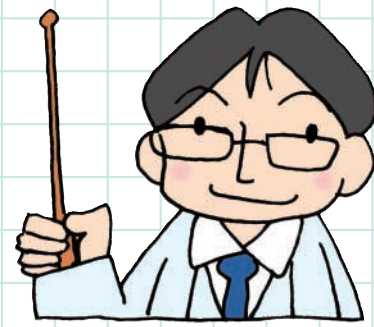
日赤ポリグロビン®N注5%



この薬は国が推進する血液製剤の国内自給と安定供給の確保に貢献する目的で日本赤十字社が製造技術を導入し、日本国内の献血血液を原料として製造・販売するものです。

製造販売元
日本赤十字社

Q & A



Q1. この薬の有効成分は何ですか？

A1.

免疫グロブリン(=抗体)という血液中の成分です。私たちの体に入ってきた病原体などから私たちを守ってくれます。

Q2. この薬はどのような病気に使うのですか？

A2.

この薬は次のような患者さんの治療に使われます。

- 免疫グロブリンが常に不足している人
(不足している免疫グロブリンを補うために使います。)
- 重い感染症になっている人
(いろいろな病原体に対する抗体が含まれているので、抗生物質などがなかなか効かない場合に威力を発揮します。)
- 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)
- 川崎病



Q3. この薬は何からできていますか？

A3.

日本国内の健康な献血者の血液を原料として作られています。

Q4. この薬を使用して、血液由来の病原体に感染することがありますか？

A4.

病原体対策として現在できるいろいろな対策をとっています。

- 献血者の問診
血液を提供してくださる献血者の方に健康状態、過去の病気、最近のこと、家族のことなどをお聞きして、回答に問題がありそうな場合には献血をお断りしています。
- 精密なウイルス検査
献血していただいた血液について、病原体に関連した検査を行います。これらの検査に合格した血液について、さらにウイルスを調べる精密な検査を行って、合格した血液のみをこの薬の原料として使っています。
- ウイルスの除去・不活化処理
この薬の製造工程で様々な処理工程を組み合わせ、ウイルスを取り除いたり、殺したりしています。

これ以外にもいろいろな対策がとられています。

この薬はバイエル薬品株式会社が販売していましたが、この薬を使って病原体に感染し、病気になったという報告はありません。しかし、現在知られていない病原体が混入している可能性もあり、この薬を投与して病原体に絶対に感染しないと断言することはできません。

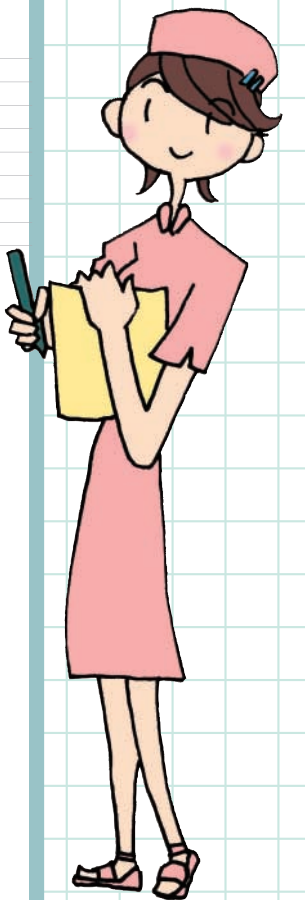
Q5. この薬の副作用にはどのようなものがありますか？

A5.

副作用は次のようなものが報告されています。

- ショック、アナフィラキシー様症状
(呼吸がしにくい、胸や息が苦しい、脈が速くなるなどの症状)
- 肝臓の障害、黄疸
(疲れやすい、食欲が無いなどの症状、皮膚や白目が黄色になるなどの症状)
- 無菌性髄膜炎
(発熱、頭痛、嘔吐、気を失いかけるなどの症状)
- 腎臓の障害
(尿の出が悪くなるなどの症状)
- 血小板減少
(血が止まりにくくなるなどの症状)
- 発熱、発疹、かゆみ、溶血性貧血
(貧血などの症状がある、頭痛、吐き気などの症状)

これらの症状以外にも、注射の後に気分が悪くなったり、何か異常を感じたら、すぐに主治医や薬剤師、看護師に伝えてください。



Q6. 使用後に注意することはありますか？

A6.

麻疹ワクチン、おたふくかぜワクチン、風疹ワクチン、水痘ワクチンなどの予防接種を予定している人は、この薬の使用後、3ヵ月以上あけてからワクチンを接種してください。